

オンライン研修会(高校生物・地理歴史) 古人骨からみた病気と社会

山梨県高等学校教育研究会生物分科会・東京都生物教育研究会・
日本人類学会人類学普及委員会 共催

日時

2020年

11月28日 土 13:30～15:30

参加無料・下記フォームよりご登録下さい
主な対象:中学校・高校の生物・歴史教諭
(一般の方の聴講も歓迎します)

講演1

13:30-
14:00

『五千年前の初期稲作農耕民は
結核症を患っていた』

岡崎健治(鳥取大学・医学部・助教)



講演2

14:30-
15:00

『骨に残された病変と埋葬から
過去の社会を見る』

谷畑美帆(明治大学・文学部・兼任講師)



登録者にZoom会議室(13:00開場)をご案内します

登録フォーム <https://forms.gle/N8wafP3mbGerAzjR7>

お問い合わせ先:人類学普及委員会

担当・米田(myoneda@um.u-tokyo.ac.jp)



オンライン研修会(生物・地理歴史教員むけ) 古人骨からみた病気と社会



古病理学では、骨に残された病気の痕跡から、過去の人びとの生活や社会を読み解きます。本講演会では、長江下流域でみつかった東アジア最古の結核の事例と、江戸の人々の骨に残された病気の痕跡について、2名の専門家に講演いただきます。



谷畑美帆

京都市生まれ。博士(学術)。日本学術振興会特別研究員、英国自然史博物館特別研究員、北里大学一般教育部特別研究員などを経て、明治大学黒耀石研究センター・客員研究員、同大学文学部兼任講師、同大学研究・戦略機構客員研究員、NPO法人スケルトン研究機構理事。『骨と墓の考古学 大都市江戸の生活と病』角川ソフィア文庫(2018)、「鈴鳴りの彼方で」(つむぎ書房 2021年出版予定)をお読みください。



上海 5000年以上前の人骨

結核症例東アジア最古

広島市生まれ。博士(理学)。日本学術振興会の海外特別研究員、国立台湾大学医学院のポスドク研究員を経て2012年より鳥取大学医学部解剖学講座勤務。海外での古人骨の発掘、整理作業に携わり、骨の形態や疾患から、日本人の起源を含めた東アジアの人類史を研究しています。最近の論文に“Paleopathological approach to early human adaptation for wet-rice agriculture: First case of Neolithic spinal tuberculosis at the Yangtze River Delta of China” (International Journal of Paleopathology 24, 2019) がある。



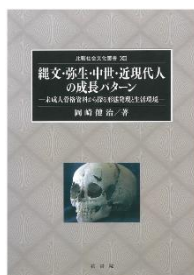
岡崎健治

2019年2月5日読売新聞

遺跡から出土する人骨からはいろいろなことがわかります。今から数百年以上前に生活していた人たち(=人骨)を観察するとどのようなことがわかるのか、お墓に埋葬された副葬品やお墓の特徴なども紹介しながらお話をさせていただきます。



谷畑美帆



日本史の教科書には、弥生時代の渡来人が稲作文化を日本列島に伝えたと記述されていますが、その水田稲作の起源地である中国大陸にて、弥生人の祖先となった集団がいかに形成され、新たな生業に適応した結果何が起こったのかについては実はあまりよく分かっていません。本講演では、2014年以降の日中共同研究によって整理された長江デルタ地域の新石器時代人骨に認められた病変から初期稲作農耕民の姿を読み解いていきます。



岡崎健治

人類学普及委員会は、生物として進化してきたヒトと、文化と社会をいとなむ人間について、皆さんと一緒に考えるために日本人類学会が設置した委員会です。



委員会ウェブサイト